

3月26日～4月14日 県美術館で記念展

秘蔵の名画 100周年で公開

岐阜信用金庫

1924年3月31日に有限責任岐阜信用組合、4月7日に有限責任岐阜信用購買組合(後の信用購買組合岐阜庶民金庫)が設立。40年二つが合併して有限責任岐阜信用組合が発足。51年に岐阜信用金庫に改組した。現在は県内外に89店舗(岐阜60、愛知29)を構える。

好岡政宏 岐阜信用金庫理事長

対談

杉山幹夫 岐阜新聞社最高顧問



「シーズ・ドリーム」や記念絵画展について語る好岡政宏理事長＝岐阜市神田町、岐阜信用金庫本部

岐阜信用金庫(本部・岐阜市神田町)は今日31日、創立100周年を迎える。金融業務という本業での地域経済活性化への貢献はもちろん、文化・スポーツなど地域住民の生活を豊かにするさまざまな取り組みも行ってきた。メモリアルイヤーの記念事業の一つが、県美術館(同市宇佐)で開催される所蔵絵画の展覧会。26日の開幕を前に、好岡政宏理事長と岐阜新聞社の杉山幹夫最高顧問が対談し、文化振興とまちづくりの歴史と未来について語り合った。

変革と挑戦の歴史

杉山 まずは創立100周年おめでとう(笑)です。節目を迎えた率直な思いは、好岡 先人たちが築いてきた長い歴史の重み改めて感じている。100年前に岐阜の地で創業し、取引していた中で、地域を支えられて発展してきた。感謝の気持ちいっぱい。次の100年を描きながら、変革と挑戦の心を忘れず、地域に還元していきたい。

振り返ってみると地元と大きなつながりがある中で、当金庫がこれまで歴史をどう描いてきたか、これは根底には、やはり地元の方のバイタリティーがある開拓精神があった。例えば越前産出、1933年に、全国の信用金庫として初めて環境を越えて、愛知県に木曽川支店を開設した。岐阜市はもと「繊維の街」。製品を作って販路する

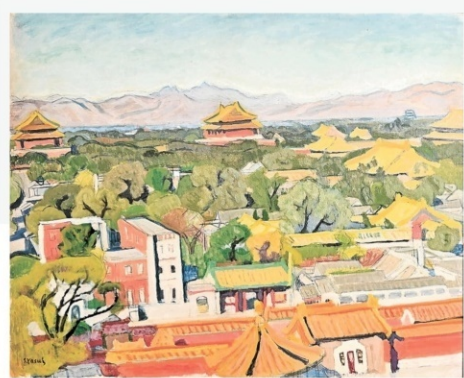


杉山幹夫岐阜新聞社最高顧問＝同

という流通の施設設備を組んでいるが、糸を作るのは尾張地域が主だった。糸から製服売まで、繊維業を一貫して支えていくシステムを構築するのめ意識も進んだ。杉山 戦後、金融機関がお金を借りるというところがなかなか難しかった時代もあった。そんな中で、岐阜信金が「こ」支援をして、個人商店から中小企業へ、そして今や上場企業に成長していった例をいつも知っている。『借金さん』でお金を借りて成功した経営者もいっぱいいる。これは地

文化都市を推進

杉山 金融業務だけでなく、昔から岐阜信金は名画がたぎったところ、興味深く思っていた。初代理事長の河合嘉助さん、2代目の松原嘉一さんが中心となり日本画や洋画を収集してきた。本場に集めて、良い物を愛する眼力があつたこと。好岡 先輩が昭和30年代から50年代に、画家の目を支援しながら購入してきた歴史もある。創立70周年、80周年でも展覧会を開催したが、基本的には常時公開してあげてほしい。100周年を記念して、皆さまに改めて披露しようと考えた。そこで3月26日から県美術館で「創立100周年記念 岐阜信用金庫秘蔵名作展」という展覧会を開催する。当金庫で所蔵している絵画の中から約70点を展示する。(一)対談の場面に展示してある安井曾



安井曾太郎「北京風景」(岐阜信用金庫所蔵)

安井曾太郎 写真様式を確立

1888年生まれ。大正から昭和にかけての洋画家。明治期に渡欧してセザンヌなどの影響を受ける。帰国後は、明快なコントラストで描く写真様式を確立した。洋画家梅原龍三郎とは、生涯を通じての友人で、昭和には「安井・梅原時代」といわれる一時代を築いた。1955年没。

藤田嗣治 「乳白色の肌」裸婦像に絶賛

1886年生まれ。日仏両国で活躍し「エコール・ド・パリ(パリ派)」の一人とされた。東京美術学校卒業後に渡仏し、独自の「乳白色の肌」と呼ばれた裸婦像などは西洋画壇の絶賛を浴びた。欧州で第2次世界大戦が始まると帰国を余儀なくされる。太平洋戦争では、記録のための従軍画家として戦地へ派遣され、日米兵士がひしめき合い死闘を演じる戦争画「アッツ島玉砕」を手がけた。戦後は戦争協力者との批判を浴び、フランスへ渡って帰化。レオナルド・フジタと名乗った。1968年没。

【創立100周年記念 岐阜信用金庫秘蔵名作展】3月26日、4月14日に県美術館(岐阜市宇佐)で開催。藤田嗣治の「婦人像」、安井曾太郎の「北京風景」、梅原龍三郎の「薔薇」、川合玉堂の「蜀桐」、川端龍子の「バラ」など、岐阜信用金庫の所蔵品の中からえりすぐりの約70点が並び、開幕日となる26日には午前10時10分からスペシャルトークと題したイベントがある。同日午後2時、4月6日の午前10時と午後2時にギャラリートリックも実施予定。入場無料。主催は岐阜信用金庫、岐阜新聞社、岐阜放送。

*13面に続く